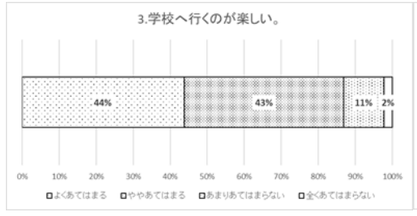
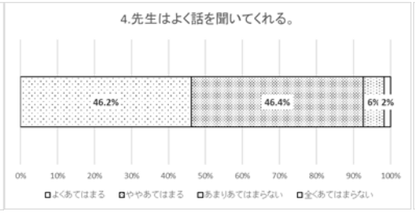
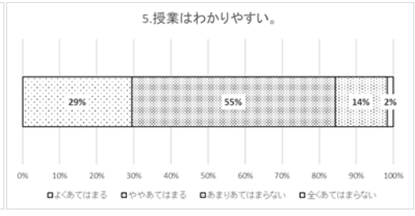
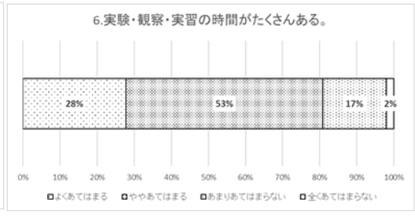
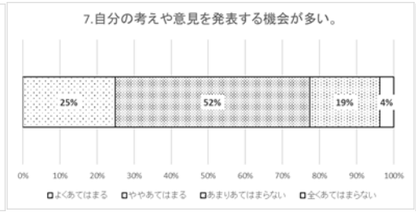
令和７年度 学校教育自己診断（生徒）結果 （回答率88.6%）

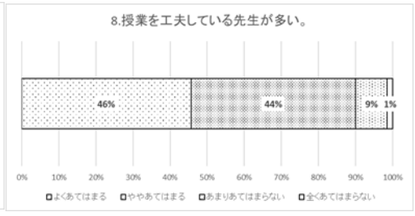


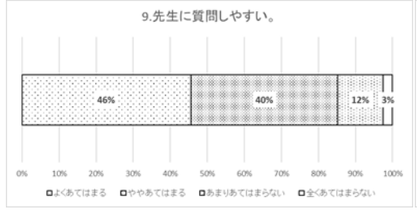


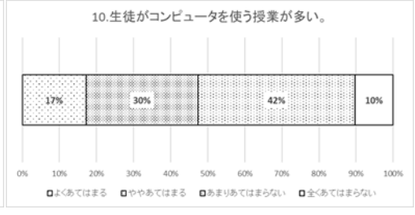


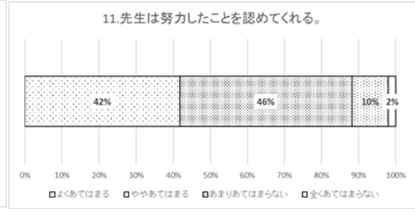


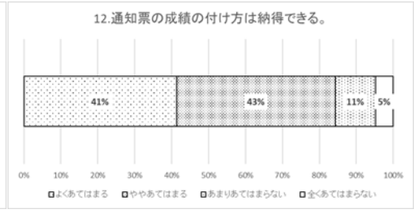


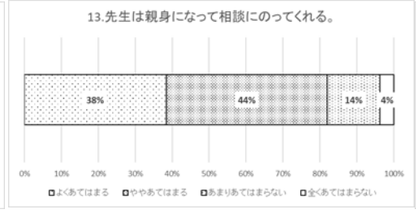


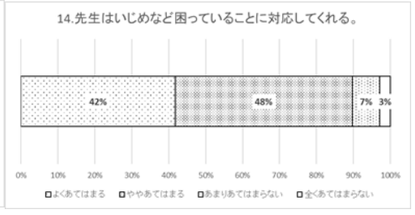


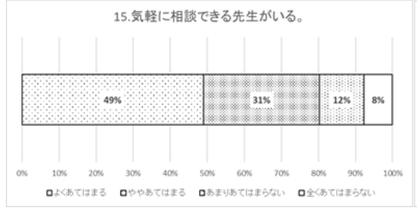


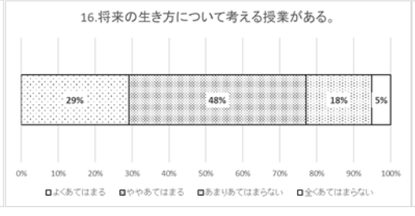


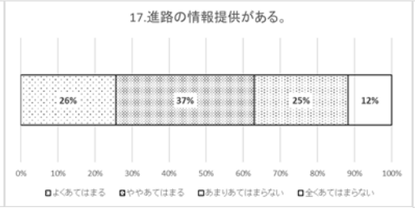


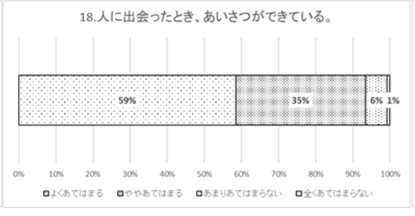


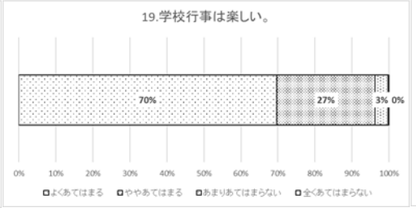


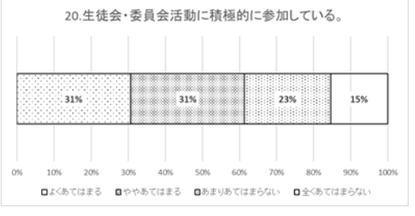


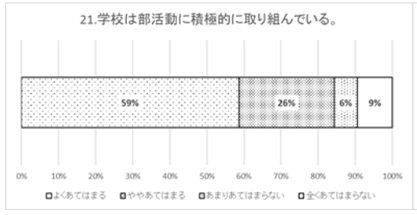


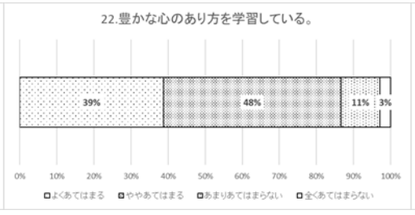


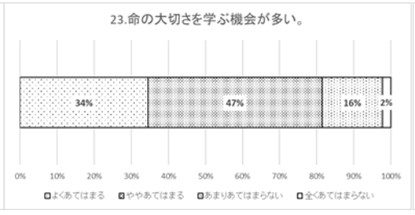


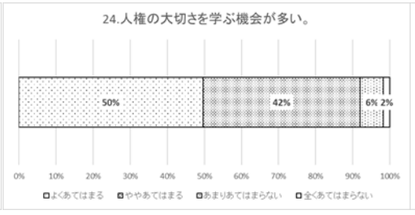


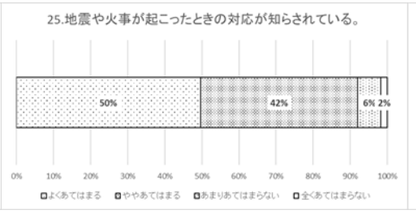


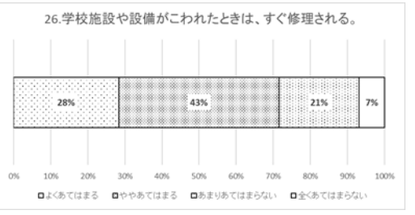


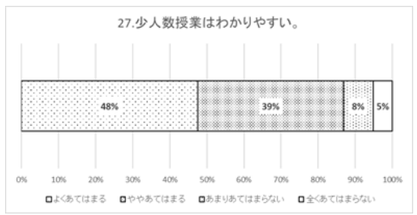












肯定的評価90%以上の項目	R7	R6	R5
学校行事は楽しい	97	95	93
人に出会ったとき、あいさつができている	94	92	94
先生はよく話を聞いてくれる。	92	92	90
人権の大切さを学ぶ機会が多い	92	93	95
授業を工夫している先生が多い。	90	93	90
先生はいじめなど困っていることに対応してくれる。	90	91	84

肯定的評価70%未満の項目	R7	R6	R5
生徒がコンピューターを使う授業が多い。	47	65	71
進路の情報提供がある	63	69	76
生徒会・委員会活動に積極的に参加している	61	62	66

昨年度よりも肯定的評価90%以上の項目が4つ減りました。しかし、「授業はわかりやすい（84%）」「先生は努力したことを認めてくれる（88%）」「豊かな心のあり方を学習している（87%）」の3項目については割合に高い水準を保っています。また、「地震や火事が起こったときの対応が知らされている（77%）」については、2学期の避難訓練で生徒に周知するよう努めます。

学校行事に前向きに取り組み、よく挨拶ができ、教職員との関係も良好である二中生像は今年も変化なく見て取れます。今後も二中が大切にしてきた「人権教育」の取り組みを中心としながら、自分も友だちも大切にできる二中生を家庭と協力して育んでいきます。

一方、肯定的評価70%未満の項目に関しては昨年度と同様の3つとなりました。特に「生徒がコンピューターを使う授業が多い」に関しては大幅に下がってしまいました。原因としては SUN ネット端末が Windows 機から iPad に入れ替わる過程で、端末自体を使えない期間が長引いたことが考えられます。今後、生徒自身が iPad を使用するような授業づくりを進めていきたいと思います。